

NO	内容	回答
1	<p>東濃圏域医療構想の会議を進められてきた中で、坂下病院の機能を縮小し、現在に至っていると考えます。もし地域として回復期病床が必要と考えるのであれば、中津川市民病院の中で機能病床の変更を行うのが良いのではないのでしょうか。</p> <p>委員会とは別に素朴な疑問ですが、市の財産の運用として考えた場合、譲渡や売却割合についても議会や市民の了承を得ているものと受け止めてよろしいのでしょうか。</p>	<p>坂下診療所を将来的に廃止する方針であれば、中津川市民病院にすべてを集約する考え方もありますが、中津川市（市長）は、元々やさか地区を中心とする恵北地区や長野県木曾南部の医療圏を担っており、今後も安定的、継続的に必要な医療機能を現在の場所で提供していきたい考えです。</p> <p>中津川市議会に対しては、議員で構成される病院・医療等対策特別委員会が平成28年度以降、設置されており、今回の民間譲渡についても説明をしております。その中でご意見などいただきながら民間譲渡の話を進めておりますので、了承を得ていると認識しています。（中津川市）</p>
2	<p>医療従事者の確保をどのように考えているのか？（医師や透析専門医など踏めて）</p>	<p>法人内における募集や異動はもちろんですが、法人の人事チームにおいて、純正会の取り組みに賛同していただける方や中津川市で働いてみたいという方を全国より募集します。</p> <p>僻地における地域医療のモデルとして、大学様で協力していただけることがあれば是非お願いしたく存じます。（純正会）</p>
3	<p>医療計画は、自院や地元・地域の事情だけで決定し進めるものではないと思います。坂下診療所を病院とする計画案は、その運営主体である純正会と中津川市の強い希望で進められていますが、それに大きくかかわる団体が、近隣の医院・民間病院が所属する医師会であり、民間・公的病院が所属する病院協会です。両団体とも、診療所の病院化に対し、強い反対の意思を示したにもかかわらず、中津川市がこの計画を進めようとするのは何故ですか？</p>	<p>中津川市は市町村合併により旧坂下病院があった坂下地区が中津川市となりましたが、今後も必要な医療機能を現在の場所で提供していきたい強い思いがあり、現状のままでは、診療所そのものも維持していけないと判断したからです。</p> <p>また、医師会などのご意見は重く受け止めなければならないと考えておりますが、中津川市の地域医療を守っていかなければならない考えの中で今回の提案を進めています。</p> <p>現時点では、実際に運営していただく純正会と地元医師の面談など実現できておらず、今後は、民間譲渡を進めて行く中で、どのような協力体制を構築するかなど、懸念材料を軽減するための建設的な話し合いを進めていきたいと考えております。（中津川市）</p>
4	<p>人口構成、疾病構成が変化し、坂下の地に病院が必要であるという、誰でも理解できる明らかなデータの提示はなされていません。病院化するのであれば、そのデーターを示してください。</p>	<p>中津川市では、医療需要を分析する手段のひとつである受療率を用いて傾向として回復期の需要が増加するとしており、不足する病床数としては、純正会さまが分析し、データとして提示したつもりであります。</p> <p>また、中津川市の年齢階層別入院患者推計について令和3年度の東濃圏域地域医療構想等調整会議の資料でも示されていますが、2040年頃まで65歳以上の患者が増える分析結果になっております。（中津川市）</p> <p>岐阜県より必要病床数は診療圏で考えてくださいと言われておりますので、坂下地区で説明する必要はないと思っています。</p> <p>ここでいう診療圏は車で30分圏内の地域と言われております。坂下診療所から30分圏以内は中津川市の中心部から木曾医療圏の大桑村まで範囲となり、診療圏では約37000人の地区となりますし、中津川市の中心部以外は高齢化率の高い地区でもあります。また、坂下町より東は45km先まで病院がない地域です。外来、訪問診療、訪問看護を積極的に行う上でも本地区に拠点となる入院施設は必須と考えます。</p> <p>回復期病床と地域の高齢者医療を担うことを目的としていますが、回復期という点では中津川市民病院で療養中の患者だけでなく、他地域で療養している中津川市近辺の住所の患者の受け皿でもありますので、敢えて坂下地区で考える必要はありません。（純正会）</p>
5	<p>坂下地区に84床の病床を持つということは、中津川市全体として84床を増床するのか、それとも中津川市全体の現在の病床数を据え置き、中津川市民病院の病床から84床減らして対応するのかを最初に議論すべきであると考えます。そのために、この件に関する、中津川市民病院の今後についての方向性・関係性を伺いたい。</p>	<p>令和4年度の第1回東濃圏域地域医療構想調整会議（資料1-1）で、「坂下診療所を民営化し、法人に委ねる計画案が進行している。実現した場合は、役割分担を明確にし、2施設で必要な病床数を確保したい。当然、地域医療構想等調整会議にお諮りする必要があるが、少なくとも中津川市民病院の休床している病床を坂下診療所に付替えるなど、連携を図りながら進める可能性がある。」と方向性を報告しています。</p> <p>令和5年度第2回の調整会議にあたって、純正会さまは申請病床数を推計される中津川市の回復期・慢性期の必要病床数76床に変更しています。今回の坂下診療所の病床確保については、中津川市民病院にある休床病床44床と坂下診療所の19床が76床のなかに含まれるという考え方で、中津川市の総病床数を大きく増やすことなく、回復期を担っていただきます。（中津川市）</p>

NO	内容	回答
6	<p>医療法人純正会 様への質問</p> <p>現在、純正会様が運営をしてみえる医療機関は全て院内処方であるようですが、院外処方にしている坂下診療所を譲渡された場合、院内処方に変更するようなことがあるのでしょうか。</p> <p>お考えをお聞かせください。</p>	<p>現段階ではわかりません。患者さんの利便性、坂下診療所内の設備状況や整備に係る費用面、人員配置等や調剤薬局さまの取り組み状況を総合的に判断して考えてまいります。（純正会）</p>
7	<p>医療法人純正会 様へ要望</p> <p>前回の純正会様のご説明のなかで、坂下診療所で勤務している従事者はそのまま継続して雇用し、不足人員は純正会様本体から補充することにより近隣の医療機関に影響を与えない旨の説明がありましたが、現在、坂下診療所の近隣には薬局があり、院内処方になるとその薬局は閉局をさざるを得なくなるかと思っておりますので、坂下診療所を譲渡された場合においても院外処方の継続をお願いしたいと思っております。</p>	<p>同上</p>
8	<p>中津川市 様への要望</p> <p>従来より中津川市薬剤師会はコロナウイルスワクチンの充填作業や休日診療において無償で対応をしたりと中津川市と協調して対応をしてきているかと思っております。</p> <p>つきましては、坂下診療所の譲渡の際には近隣の薬局を含め中津川市の薬局にも配慮頂けましたら幸いです。</p>	<p>中津川市薬剤師会さまには、日頃よりご協力いただき、感謝申し上げます。</p> <p>坂下診療所の近隣薬局に対するご意見については、純正会さまとの協議の中で検討させていただきますが、最終的に純正会さまの判断となりますので、ご理解のほど、よろしく願いたします。（中津川市）</p>
9	<p>No.31の中津川市の回答に対して</p> <p>国保だけでなく、協会けんぽの負担も増える。</p> <p>後期高齢に対して多額の拠出金を負担しており、その部分も増える。中津川市最大の保険者として、回答のような市の認識は改めていただきたい。</p>	<p>前回の回答は、中津川市に対する負担金に関しての質問であったため、あの様な回答といたしました。</p> <p>医療費の適正化への取り組みは、十分理解しているつもりです。医療費削減のひとつに健診事業も重要な取り組みと考えています。健診の未受診者が増えれば、病気の発見が遅れ、本来必要ではなかった医療費が増加するなど、今後、純正会さまが運営する中で、健診事業の取り組みも充実していく考えです。</p> <p>また、坂下診療所で病床を確保することは、地域に必要な医療を医療機関が提供し、市民は、良質な医療を享受できることが、重要であり、無駄な医療費に繋がるとは考えておりません。</p>